

能登島の酒米 2年日は2倍



酒米の苗を植える参加者ら＝七尾市能登島祖母ヶ浦町で

田植え奮闘 額に汗

った。

今年は六軒の農家の協力を受けて約一万五千平方尺に作付けをする計画。この日の田植えには、青年部が主催する田舎暮らし体験に参加した首都圏などからの十人が加わり、酒米「五百万石」を手で植えていった。

青年部長の石坂淳さん(四三)は「日本酒一升には、一畳分の田んぼの酒米が必要。一升売れば一畳分の耕作放棄地がなくなると訴え、日本酒造りを農家のモチベーションにしたい」と話していた。(武藤周吉)

七尾市の能登島観光協会

青年部と都会の若者らが十一日、能登島祖母ヶ浦町の体験農園で酒米の田植えをした。能登島で収穫した酒米による日本酒造りの二日目がスタート。今年は何年か付面積を二倍に増やし、生

産量の増加を狙う。

島の特産品開発と耕作放棄地の活用を目指して昨年からはじめた取り組みで、酒造会社の協力を得て純米酒「能登島」を造った。二月に発売すると、約八百六十本が即売する好評ぶりだ